

高岡商工会議所 令和3年度 経営発達支援計画評価委員会報告書

●日 時：令和3年8月18日（水）午後2時～3時10分

●場 所：高岡商工ビル5階502号室

●出席者：委員長 吉岡 周 氏（高岡商工会議所 副会頭）

副委員長 中村 和之 氏（国立大学法人富山大学 副学長）

委 員 中島 範行 氏（公立大学法人富山県立大学 副学長）

委 員 細川 謙一 氏（富山県商工労働部 地域産業支援課長）

（代理：岡田 昌子 氏（富山県商工労働部 地域産業支援課 課長補佐）

委 員 長井 剛志 氏（高岡市産業振興部 産業企画課長）

委 員 岡本 貴靖 氏（株式会社日本政策金融公庫高岡支店 支店長）

委 員 竹澤 敏光 氏（公益財団法人富山県新世紀産業機構 事務局長）

委 員 布目 大剛 氏（一般社団法人富山県中小企業診断協会 会長）

委 員 松村 浩史 氏（高岡商工会議所 企業経営改革常任委員会 委員長）

委 員 西田 隆文 氏（高岡商工会議所 専務理事）

オブザーバー 鈴木 悟 氏（経済産業省 中部経済産業局 電力・ガス事業北陸支局 産業課長）

オブザーバー 石澤 真樹 氏（独立行政法人中小企業基盤整備機構北陸本部 連携支援部長）



●議 題：①令和2年度 経営発達支援計画事業評価書について

②令和3年度 伴走型小規模事業者支援推進事業について

●意 見

- ・自己評価が謙虚。「4. 事業計画策定支援に関すること」は〇でもよいのでは。
- ・コロナ禍の活動で補助金の計画策定等短期的な取組みでマンパワーが割かれ、後半は低調だったのではないかと感じた。
- ・課題・評価を正しく認識しており、ITに注力する点は正しい方向性。中長期にわたる影響を踏まえ必要な支援を行ってほしい。
- ・後半の低調は致し方ない。ただ昨年評価委員会では活動がもう少し抑えられるのではという話が出たがその時点で事務局では「こういう時だからこそ取り組まなければならない」という話も聞いていた。
- ・ITやIoTを伴う事業は小規模事業者の方や高齢者にとって難しく、大・中小企業等とは違った情報や助成金、支援を提供しないとうまくいかないのでは。
- ・計画策定に時間がかかりフォローアップまで及ばなかったとのことだが、今後“ゼロゼロ融資”の返済が始まるのでフォローアップこそが大事になってくる。フォローアップ用のチェックリストを作成されるとのことだが現段階の進捗を教えてほしい。
- ・創業、事業承継等、商工会議所と強力な連携のもと取り組ませていただいている。地域の経済動向調査は行政単独では実施できず、この結果は政策に反映させていくために非常に重要な資料となっている。継続して実施していただくとともに、情報を開示いただくことで当市の利活用に繋げていきたい。
- ・コロナ禍では質より量の対応だったのではないかと推測し、できないものがあつたのは優先順位をつけて実施していったと思われ、やむを得ない。
- ・事業計画策定はあくまでも補助金をもらうための計画で実際に経営改善を図る計画ではない。今後のフォローアップは経営改善のための事業計画策定に取り組んではどうか。
- ・商談成約件数が0件で評価が×になっているが、成約0はあくまでも事業所に委ねられたもので、成約件数を目標値にするのはいかがなものか。
- ・昨年度、コロナ禍で新たな取り組みとして非接触の商談会、シンガポールバーチャル視察ツアーを実施したが気づきが多く、実施して良かったと感じており、やり方の工夫で支援はできるのでこのようなことはどんどん取り組んでほしいと考えている。
- ・ITを活用した新たな需要開拓支援事業として J-GoodTech やおもてなしギフトの実施内容記載がないが実施したのか。

- ・評価が辛口、経営指導員の努力が評価されていないように感じる。コロナ禍でイレギュラーなことが多い中、「利益率1%以上増加の事業所数」が達成率105%は高く評価したい。
- ・県内の支援計画の中でも高岡は地場産業支援の切り口が特徴であるが、地場産業のバックアップ支援が薄く感じる。事業の磨き上げをしてほしい。
- ・「経営分析」が多用されているが、小規模事業者の定量的な部分だけではなく定性的な部分を把握し、その強みを競争力に活かすという視点もほしい。
- ・自己評価が概ね辛口、一段階上げても良いのでは。小規模事業者は特に技術的な面での思い入れのある事業者が多い。定性的な部分をどう評価し、上手く育てていくかが大事。指導員の方は技術的な面になると引いてしまうが指導力を上げ、強みとしてどう表現するか。そして財務、生産管理、顧客等組織のバランスを保った指導をしてほしい。
- ・評価基準は基準軸、数値によるもので特に異論はないが、支援を受けた小規模事業者が支援に対しどう感じたかということもアンケート等をとることで定量面と定性面で確認し、今後の取り組みに繋げて欲しい。
- ・「11②支援事業自己評価委員会」は実施しなかったのか。計画が進んでいるか、改善が必要か、早めに確認することで方向性を正せるので今年度は実施していただきたい。
- ・厳しめな評価だという意見もあったが評価基準の連続性かつコロナ初年度ともあり仕方ない。そこから気づきをどう今年度、来年度に反映させていくか、それがどう生きてきているのかは次回の委員会で協議したい。
- ・地域経済動向調査は非常に重要なデータだが、HPを確認したところデータベースとして見つからない。改善にもあるが小規模事業者等が活用するための資源なので皆がアクセスできるよう検討してほしい。また経営指導員の資質向上にも取り組んでいただき、上手く活用した例は共有していただきたい。
- ・事業承継、IT、創業計画策定件数が未達だが、これらは支援機関がどう機運を作るかが大事。多チャンネルで事例紹介するなど気づきの提供が必要と考える。
- ・ITは小規模事業者にとって敷居の高さを感じるもの。業種、規模に応じて便利なソフトを通じ、画面を見せながらこちらも気づきの提供をするなど多チャンネルでの働きかけをしてほしい。
- ・セミナー、イベントといった対面集客は逆風。オンラインで何ができるのか考えてほしい。
- ・事業承継はセンシティブな内容な上、思った以上に相談件数が少なかった。60歳を超えた代表には積極的に10年後の話聞きだすなど一歩踏み込むことが必要と考えている。
- ・IT導入計画策定支援が未達であるが、これは商工会議所自身に取り組むことで小規模事業者への変化にも繋がると思っている。現在はデジタル化、ペーパーレス化を進めており、会員とのやりとりは原則メールにできないかと進めている。地道に取り組み、良好事例を積み上げていきたい。
- ・「7新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること」は成約面で×の評価をしたが、地場産業の需要をどう開拓していくかが重要。イベント倒れで成果に結びつかないことが今の課題で、少しでも前に進めたいと厳しめの評価をさせていただいた。ご指摘いただいたところをこれからの改善につなげていきたい。

※別途、経営発達支援計画 事業評価書参照

以上